

**[ISO14001を取得しました②]**

**サッポロビール株式会社札幌工場**

理事工場長  
池田 博一さん



ビールは、大麦やホップなどの農産物を原料に酵母を加えて作ります。製造過程で、生産量の約10倍もの大量の水を用います。つまりビールは豊かな自然と大地の恵みはくぐむ、生きた飲み物。自然環境を守ることはサッポロビールの事業基盤を守ることでもあるのです。

昨年、すべての工場、関係会社がISO14001の認証取得を完了しました。今後はこの環境マネジメントシステムを生かした取り組みを強化していきます。札幌工場では、特に使用電力の削減に力を注いでおり、装置の見直しなどによって過去半年間で14万kWh余りの消費電力削減を達成。これにより、約50tの二酸化炭素を削減した計算になります。

一昨年5月、サッポロビール園入口の案内広告塔に、風力と太陽光による発電装置を取り付けました。発電装置で、広告塔が必要とする年間消費電力の4分の1を賅っています。このシステムは、当社の環境保護対策を示す好例です。お越しの際は、ぜひご覧になってください。



自家発電装置を備える案内広告塔



再生ペットボトルを利用した制服

学校用のスリッパやモップ、玄関マットなどへ再生する「ダブルリサイクル」事業にも取り組んでいます。機能性や快適さで高い評価を受けるエコ制服は、身近な環境教育の生きた教材としても役立っています。

営業車にハイブリッドカーを三百台導入。温暖化対策でも業界をリード。  
**(株)カナモト**  
電気とガソリンを使って走るハイブリッドカーは、二酸化炭素の排出量が少なく、地球温暖化防止効果が期待される次世代の低公害車です。建設機械のレンタル事業を営む(株)カナモトでは、ハイブリッドカーを三百台購入し、全国の拠点で営業用車両として活用しています。このほか、同社は低公害タイプの建設機械を次々導入するなど、業界をリードする企業にふさわしい環境対策を実践しています。



低公害車トヨタ・プリウスを導入

デザインが好評なエコロジーバッグで、レジ袋の消費を削減。  
**(株)西武百貨店**  
家庭から出るごみの約六割は、容器や包装にかかわる物が占めると言われています。こうした状況を受けて、(株)西武百貨店では包装の見直しに着手し、オリジナルのエコロジーバッグを発表。使いやすさとシンプルデザインは働く



オリジナルのエコロジーバッグを販売

女性や主婦などに好評で、レジ袋や紙袋の使用削減にも役立っています。また、西武百貨店では、店内の電力使用量を抑えたり、業務用段ボール箱を減らしたりするなどの省エネ・省資源にも、組織的に取り組んでいます。

**セミナーの開催や補助制度でISO14001取得を支援**  
札幌市では、ISO14001の取得を目指す企業を対象にさまざまな支援を行っています。セミナーの開催や取り組み事例を紹介したパンフレットを配布しているほか認証取得費用の一部を補助しています。



ISO14001とは...  
事務事業、企業活動に伴う環境負荷を減らしていく「環境マネジメントシステム」を構築するための国際規格。ISO14001の取得は、環境保全はもちろん、コスト削減などにもつながります。

**市内の企業も温暖化防止に積極的に取り組んでいます**

ISO14001を取得する企業が増えるなど、市内の企業の多くが、地球温暖化防止をはじめとする環境保全に積極的に取り組んでいます。その取り組みと実績の一例をピックアップしました。



ごみ乾燥機に生ごみを投入

生ごみを有機発酵肥料にして、クリーンな食材とおいしさづくりに。  
**札幌グランドホテル**  
中央区の札幌グランドホテルでは、ホテル内で発生する年間約三百tの生ごみを乾燥処理し、協力関係にある有機発酵肥料生産会社に納入しています。そこで製品化した肥料を使って栽培された安全なお米や野菜は、ホテルに納入され、おいしい一品となって登場します。消費地であるホテルを中心としたリサイクルの輪は、「安全でおいしく、喜ばれる料理を届けたい」という熱い思いに支えられています。

ピオトープを開放して子供たちに伝える、自然の楽しさ大切さ。  
**(株)市川造園**  
ピオトープとは、野生の動植物や昆虫などを、自然とほぼ同じ環境の中で共生させる生態空間です。東区の(株)市川造園では、敷地内に



ピオトープで自然を体験

設置したピオトープを無料で開放。自然の土や水に触れることができ、身近な場として、地域の人たちに喜ばれています。また、市川造園は、苗穂小学校に設置された学校ピオトープの造成にも協力。自然の楽しさや大切さを子供たちに伝える活動にも、積極的に取り組んでいます。

**[ISO14001を取得しました①]**

**株式会社NTTドコモ北海道**

社会環境室室長  
稲井 昭紀さん



深刻な地球環境破壊と直面している今の時代。ドコモ北海道グループは、環境を守る活動の内容と実施方法を細かく定め、経営の最重要課題として位置付けた取り組みを続けてきました。その一環として、平成12年にはドコモ北海道グループ全体がISO14001の認証を取得。現在は、企業活動に伴う廃棄物の100%リサイクルを目標としています。



回収した使用済み携帯電話を分別

昨年度は、販売店を通してお客様に呼び掛けた結果、1年間の販売台数に匹敵する約49万台の使用済み携帯電話を回収することができました。部品に含まれる金・銀・銅などの金属類は再資源化し、残りはセメントの材料として100%リサイクルしています。一方、社内で発生する一般廃棄物は97%のリサイクル率を達成しており、平成15年度には、ゼロエミッションの実現を目指します。また社会貢献活動の一つとして、社内で更改後のパソコンを集め、必要とする施設などへ寄贈することも行いました。お客様の環境意識の高まりや社員一人ひとりの意識改革を支えに、ドコモ北海道は環境保護をリードする企業を目指しています。

ペットボトルからエコ制服へ、リサイクルして学校の備品へ。  
**北海道トンボ服装(株)**

ペットボトルのリサイクルから生まれる繊維を利用した「エコ制服」が注目を集めています。西岡中学校が採用したエコ制服を販売する北海道トンボ服装(株)では、使い終わった制服を回収。それらを

Q5: 紙には、リサイクルできるものとできないものがあります。次のうち、リサイクルできない紙はどれでしょう。  
感熱紙 和紙 コピー用紙

A4: 冬場は冷蔵強度を弱くする 周囲の温度が15 ぐらいのとき、設定温度を「強」から「中」にすると、年間で76.84kwh(約1,770円)節電できます。なるべく弱く設定しましょう。